



Japan Optometric Association News

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会会報

編集
発行

「認定眼鏡士®」を認定・教育する唯一の公益社団法人
公益社団法人 日本眼鏡技術者協会
発行人 木方伸一郎 編集人 杉本佳菜子

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-6 新大阪橋本ビル9F
TEL 06-4807-5070 FAX 06-4807-5009 <http://www.megane-joa.or.jp>
E-Mail joa@maple.ocn.ne.jp

Vol.
155
JOA News 2018年11月号

CONTENTS

●巻頭言

「誇りのもてる職業に」 木方伸一郎 会長 2

●トピックス

金井副会長が名誉博士号、関国際副部長が優秀オプトメトリスト賞受賞 4

平岩副会長が薬事功労者厚生労働大臣表彰 5

日本眼鏡学会オープンセミナー

「レンズ性能特性・表示法」 5

●誌上眼鏡学 連載7

「近用デバイスの普及と眼鏡技術者」 内田 豪 専任講師 6

●議事報告

第8回通常総会（平成30年6月18日）津田会長が勇退、新会長に木方氏就任 8

2018・2019 年度 理事・監事 11

カメラアイ 11

●Q & A 13

●議事報告

理事会（平成30年10月31日）木方会長新体制がスタート 14

●ブロック会議

東北、中国、東京・関東、九州 16

●スクランブルコーナー 18

●組織活性化特別委員会、お知らせ、
広報部、編集後記 22



兵庫県姫路市 姫路城
撮影：小野明夫さん（神奈川県支部）



誇りのもてる職業に

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会 会長
木方 伸一郎

誇りのもてる職業

「眼鏡技術者を誇りのもてる職業にしたい」というのが私の願いです。メガネを調製し、お客様に快適な視生活を提供するという仕事は、とてもやりがいのある仕事です。いろいろな角度から検討して、その人に合わせたメガネを調製し、喜んでいただけたときの喜びは、眼鏡技術者冥利に尽きます。

「人生 100 年の時代」といわれますが、いくつになっても、やる気さえ充実すれば続けられる仕事です。光学的な分野だけではなく、美容的な分野や、デザインの分野、心理学の分野、眼科学の知識と多岐にわたり、まったく同じケースがなく、毎日が新鮮な出会いのある興味深い仕事です。なぜ、このような仕事をこれからやっていこうという人が少ないのでしょうか？

対面販売は絶滅危惧種？

物販が、実際の店ではなくインターネットを通じてバーチャルな店で簡単にできる時代になってきました。眼鏡調製もオートレフや自動加工機などの進歩により、ある程度のレベルのメガネが誰にでも作ることができるようになりました。昔ながらの対面販売は過去となり、これからの時代には生き残ることができないのでしょうか？ お客様とフェイストゥーフェイスで問題や悩みを聞き、今までのそのお客様との体験をふまえながら、いっしょに解決方法を考えていくことは、これからの時代には不要なのでしょうか。

生き残るために絶滅危惧種の動物のように保護されるわけではありません。生き残るためには、生活者が求める仕事、必要とする仕事でなければなりません。

目の健康に役立つメガネ

私が渡英してオプトメトリーを学んでいた昭和 52 年に、岐阜県眼鏡商業協同組合は組合等直面問題調査研究報告書を実施しました。その報告書のタイトルは「目の健康に役立つメガネ」とあります。まさに今、「目の健康に役立つメガネ」を調製する眼鏡技術者とは何かを、これからの時代に合わせて、もう一度考えていくことが必要だと思います。

生活者の視点から見た「目の健康に役立つメガネ」で第一義的に必要なことは、眼科医、視能訓練士とのより良い連携だと思います。別の方向を向いて生活者に接した場合、困るのは生活者です。生活者は混乱し、不安になります。お互いの立場を尊重し、自らの役割を果たし信頼ある協調が欠かすことはできません。このためには、現場での実践から少しずつ積み上げていくことが大切だと考えます。では、その連携のなかでの我々眼鏡技術者の自らの役割とは何でしょうか？

眼科医療に役立つメガネ店

目の健康を考えた場合、まず大切なことは、医師による診断と治療の邪魔をしないで、より良い方向へお客様を促すことだと思います。また、眼鏡店で視力チェックは、両眼あるいは片眼ずつでしっかり見る機会を与えることとなり、眼の病気の早期発見がみつきやすい場です。その上で、より快適なメガネの調製を目指して、そのお客様の話をよく聞き、一緒になって追求していくことが、我々の役割だと考えます。

その人に合わせたメガネの調製

私たちの仕事をひと言で表すとしたら、「その人

に合わせたメガネの調製」ではないかと思います。目の健康を考えて眼科医療と連携しながら、自分たちの知識をもとに、よりその人に合わせた度数で、よりその人に合わせたフレームやレンズを選び、よりその人に合わせた掛け具合のメガネであり続けるようにフィッティングをしていくのが私たちの仕事ではないかと思います。これは、いろいろな仕事AIを中心とした自動化により、人間の手を離れていく時代のなかで、さらに重要となっていく仕事だと思っています。

教育は当協会の普遍的な核

そのような観点にたって、公益社団法人日本眼鏡技術者協会では、最新の眼鏡に関する情報を提供するとともに、基礎知識をより確固たるものとするための知識の積み重ねや、スキルアップを目指します。

この教育のスタンダードを上げることは当協会の普遍的な核であり、教育を受ける側の意見をお聞きしながら、もっとわかりやすく、もっと役に立ち、もっと受講しやすいような生涯教育となるように、向上に努めていきたいと思っています。

生活者の信頼度を高める国家資格

当協会のもうひとつの柱となる事業は、我々のこうした活動を生活者にもっと知ってもらうことです。そして、どこに行けばこうした眼鏡技術者に出会うことができるのかという情報提供を生活者に広めることです。そのためには、自主認定より、より公正な観点からの国家資格の方が、生活者からみて信頼度が増すと考えます。現在、眼鏡技術者国家資格推進機構を通じて生活者にとって必要な制度であることを訴えており、一日も早い実現を待ち望んでいます。そして具体化が進んでいくにつれ、当協会がその国家資格制度の中核となるように、柔軟かつ大胆な組織改革を進めていきたいと思っています。

オプティカルアワード

メニコンの創業者である田中恭一氏は若い時代には眼鏡店で働き、自由な発想と斬新なアイデアで新しいデザインのメガネを世にだしました。このような現場からの生き生きとしたアイデアを今の時代にも促すことを目的とした田中恭一オプティカルアワード（仮称）を当協会は創設しました。売れる商

品の発掘ではなく、生活者に寄り添う立場から、こういった人々にはこんな工夫があれば喜ばれるといったアイデアに対して賞を差し上げることで、業界の活性化と生活者への認知度を高めようというものです。

現場での皆さんが、お客様との出会いの中で、いろいろと工夫されるアイデアをどんどん応募していただけることを願っています。

会員の減少の理由を探る

現在、残念ながら当協会の会員は少しずつ減少しています。どんな人が退会していくのか、またどう理由で退会していくのかを、いろいろな角度から分析し、その対策を検討していかなければなりません。しかし、それと並行して、現在の状態でも収支が成り立つようにコストの削減を断行していかなければなりません。

収支の健全化

日本眼鏡技術者協会は、公益社団法人であり、もちろん利益を追求する団体ではありません。しかし、年度収支がマイナスとなり積立金を取り崩し続けている状態では存続できません。

当協会の収入は、会員の年会費と受講料、認定眼鏡士の更新料、認定試験の受験料から主に成り立っています。会員の減少が続けば、年会費収入は減り、更新料や受験料は年度により増減します。こういった状況のなかで、今後の国家資格推進の動きを注視し、広報活動をタイミングよく実施していくためには、メリハリのあるコスト削減が必要です。

教育事業は核ですが、コスト削減しない聖域ではありません。時代に沿いながら、ニーズに合わせ、質を下げずに、コストを下げっていく工夫をしていきたいと思っています。

広報活動は必要です。しかし、現在進行中の国家資格推進の動きに合わせタイミングを見測ることが重要です。誰に向けて、どうやって、いつやるか、戦略的な広報事業についても、皆で工夫していきたいと思っています。

幸いにも、当協会には、エネルギーにあふれ、やる気のある新しい力が芽生えてきています。彼らと一緒にあって、皆さんの声を聴き、生活者にとって役に立つ公益社団法人日本眼鏡技術者協会であり続けることを目指します。

金井副会長が名誉博士号を授与される

金井昭雄副会長兼国際部長に、母校であるカリフォルニア州、マーシャル・B・ケッチャム大学（MBKU）のオプトメトリー学部より名誉博士号（Doctor of Humane Letters）が授与されました。

「Doctor of Humane Letters（ドクター・オブ・ヒューメイン・レターズ）」は、MBKU が授与する最高の学位であり、人道支援において顕著な貢献を行った人物に贈られるもので、金井副会長がこれまでにやってきた海外難民への視力改善活動の功績が評価され授与されました。2008 年には、ペンシルベニア・カレッジ・オブ・オプトメトリーから同じ学位が授与されており、今回で 2 度目となります。

授与式は、5 月 23 日にカリフォルニア州アナハイム市にあるイーストサイド・クリスチャン・チャーチ大ホールにおいて開催された、同大学のオプトメトリー学部、サザンカリフォルニア・カレッジ・オブ・オプトメトリー（SCCO）の第 114 回卒業式に先立って執り行われました。この日集まった 1,000 人を超える聴衆を前に、2016 年に UNHCR ジュネーブ本部が製作した、アゼルバイジャン国内での視力支援活動の様子を収めたビデオがスクリーンに大きく映し出され、会場内からは大きな拍手が沸き起こりました。続いて MBKU のケヴィン・アレクサンダー学長より学位記が手渡されました。



学位授与式

関国際副部長が優秀オプトメトリスト賞を受賞

関真司国際副部長は、アジア・太平洋地域で長年携わってきたオプトメトリー教育への貢献が評価され、母校（Pacific University College of Optometry）から 2018 優秀オプトメトリスト（Kamilia Massih Distinguished Optometrist）賞が贈られました。

5 月 19 日午後 1 時 30 分からパシフィック大学 Hanson Stadium で開催された卒業式に列席し、「2018 年の卒業式でこの賞を受賞することは非常に名誉です。世界の人口の半分を占めるアジア・太平洋地域でのオプトメトリーの専門職が急速に発展しています。

私自身癌生還者として、同じ病気で短命であった Dr.Massih の記憶と功績を称えて、今後オプトメトリーの発展のために頑張っていきたいと考えています。この名誉な賞を感謝します。ありがとうございました」とスピーチをされました。



卒業式でのスピーチ

平岩副会長が薬事功労者厚生労働大臣表彰

長年にわたって医薬関係事業の発展向上に貢献し、医薬行政の推進に顕著な功績があった人に対して、毎年厚生労働大臣から表彰をされています。今年度は、薬剤師会関係 41 人、医薬品製造業関係 4 人、医薬品卸業関係 2 人、医薬品小売業関係 4 人、医薬品登録販売業関係 4 人、医薬品配置販売業関係 6 人、医療機器等関係 5 人、化粧品関係 5 人、日本赤十字社 1 名が受賞されました。

当協会からは、平岩幸一副会長（兼財務部長）が医療機器販売業関係で受賞されました。表彰式は、10 月 23 日午後 2 時から、東京・霞ヶ関の厚労省講堂で表彰式が行われました。

平岩副会長は、愛知県眼鏡小売商協同組合理事長を 15 年間務め、また眼鏡公正取引協議会会長、日本眼鏡販売店連合会副会長、当協会副会長などを歴任。特に薬事関係の業務に永年従事し、今回その功績が認められました。



＝ 日本眼鏡学会 第22 回オープンセミナー

160 人が「レンズ性能特性・表示法」学ぶ

日本眼鏡学会（魚里博理事長）は第 22 回オープンセミナーを 10 月 23 日午後 1 時 30 分から、IOFT 会場近隣の TFT ビル東館で開催、メーカー、小売店の関係者ら約 160 人が参加した。セミナーはレンズの性能特性、表示法をテーマに 6 題の発表があり、受講者との質疑応答で議論を深めた。



セミナー会場

今回は、同会の眼鏡レンズ研究部会（高橋文男部長）が主宰した。冒頭、魚里理事長が「熱心に聴講しディスカッションをして議論を深めてほしい」とあいさつした。続いて、高橋部会長がセミナーのイントロダクションとして「秋に開催されるオープンセミナーは、日本眼鏡学会が組織する 6 つの研究部会が毎年持ち回りで担当している。眼鏡レンズ研究部会が担当する領域は非常に広い。眼鏡レンズの技術的分野全般が対象となる。レンズの技術的な内容の話をオープンに聞く機会は少ないとの思いで今回の内容を組成した。日頃抱いている疑問点が少しでも解消できれば嬉しい」と話した。

セミナーは 2 部構成。第 1 部は座長に森峰生理事（東京眼鏡専門学校主任講師）を迎え、「可変屈折力レンズ及び新しい概念のレンズ」をテーマに、三井

化学（株）の村松昭宏氏、伊藤光学工業（株）の宮島泰史氏が自社製品を紹介した。

第 2 部は、林光久理事（同校校長）を座長に「レンズの性能特性とその表示法、最新 JIS / ISO 規格」の統一演題で発表が行なわれた。まず、「レンズ種類別光学スペックと装用時光学性能」を白柳眼鏡光学研究所の白柳守康氏、「レンズ材料の性能評価方法～調光レンズを中心に～」を（株）トクヤマの竹中潤治氏。続いて、森峰生氏が「加工精度、枠入れ精度～加工および枠入れにおける留意点～」について詳説。次いで、HOYA ビジョンケア部門（SC7 / WG3 眼鏡レンズ委員長）の川合忠章氏が、眼鏡レンズ関係の国際規格並びに国内 JIS 規格の直近の状況と、改定及び新規に開発された JIS 規格の改訂点と重要点に関する解説を行なった。



著作者プロフィール

(公社)日本眼鏡技術者協会 教育部長
めがね技術コンサルタント
東京眼鏡専門学校非常勤講師
各種眼鏡技術セミナー講師

近用デバイスの普及と眼鏡技術者

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会

専任講師 内田 豪

7 回目の誌上眼鏡学、今回は趣向を変えて解説してみたいと思います。当協会で行う生涯教育は「座学」と「実技」があり、私の担当する実技テーマのひとつは「近見時における視機能チェック手法の解説」です。我々眼鏡技術者にとって近見の問題は非常に重要なテーマと思い、実技に取り入れたのですが、その背景にはインターネット普及に伴う近見作業の増大があります。

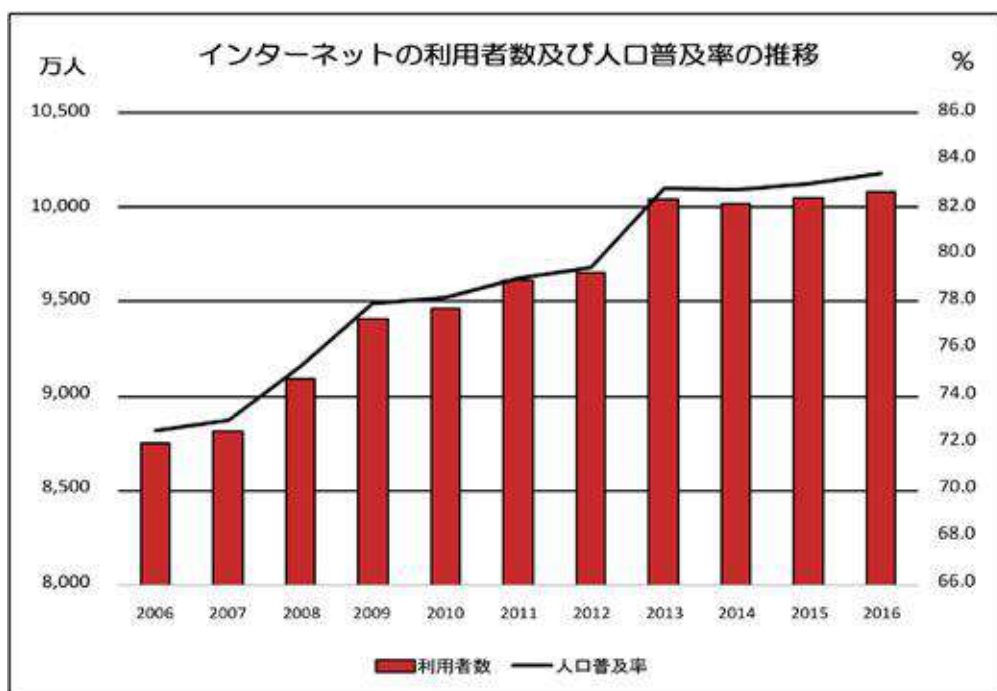
この原稿が会報に掲載される頃は IOFT セミナーが終わっていると思いますので、今回はそのセミナーに用いた資料を少しだけ（ごく一部）公開して解説いたします。

図－1 は総務省の通信利用動向調査データをグラフ化したものです。インターネットの人口普及率は 2016 年で 83.5% となっています。利用者は 1 億人を超えています。

これだけ普及していると眼鏡の情報もインターネットを利用して得ることが多く、実際レンズメーカー各社のホームページも様々な情報を掲載しています。

ところで、インターネットを利用する際に使う機器、つまり端末の種類ですが、皆さんはどのような端末を用いているでしょうか。総務省では利用されている端末の種類も分析しています。

図－1

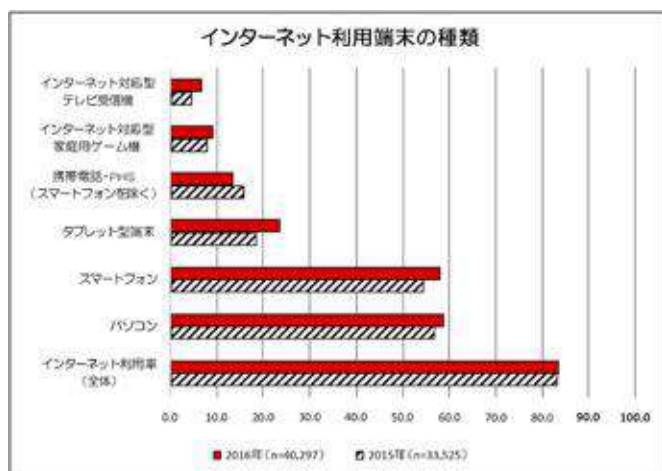


図－2 をご覧ください。

ここで注目すべきところは、端末の種類でスマートフォンの利用がパソコンとほぼ同等であるところです(15年と16年ではスマートフォン利用の方が、伸び率が大きい)。生涯教育 2018 でスマートフォンの画素数に関して触れましたが、サイズは 6.5 インチ未満であり、パソコンの画面に対して小さい事を述べました。列車やバスの車内でスマートフォンを眺めている姿をよく見かけますが、最近は駅構内や町中でスマートフォンを見ながら動くことが思わぬ事故につながり、一部では社会問題化するほどです。小さな画面を長時間注視することは眼に対してもそれ相応に負担がかかることになります。眼鏡を製作する際には眼鏡の使用目的を聞き取る事が大切ですが、最近はインターネットを利用する端末の種類も大切な事柄となることでしょう。

インターネットの利用率を年齢階層に関して分析

図－2



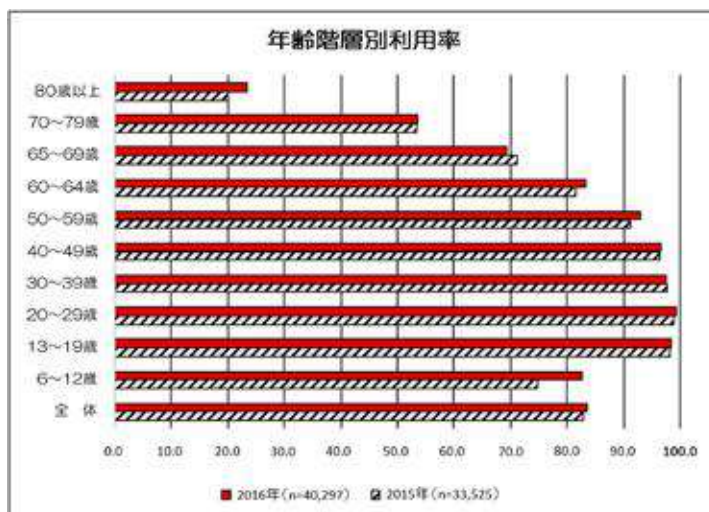
(注) グラフは数値データから図版化しています。取り扱いに注意してください。

したデータが図－3 になります。

「インターネット」と聞くと、若い人の話題と捉えがちですが、年齢的に近用眼鏡が必要となる世代も旺盛な利用率であることがわかります。そうです、インターネットは近用眼鏡と大きく関連しています。老若男女問わず、スマートフォン利用時間など来店時に充分聞き取る事が大切です。また、累進屈折力レンズの選択にも近用を重視した製品や、近見専用眼鏡の提案なども考慮に入れる時代です。インターネットでの表示は文字情報から動画情報と精緻で多岐に渡ります。新聞や本も近用のデバイス(スマートフォン)を利用する時代になっています。長時間のスマートフォン利用のケースも多く、こうした時には十分に雲霧時間を取る工夫も必要です。あらゆる世代の屈折測定で「スマートフォン利用ありき」を肝に銘じたい時代になりました。

近見時における視機能チェックを怠らないようにしたいですね。

図－3



第8回 通常総会 報告

日 時／平成30年6月18日(水)
午後2～4時
会 場／新大阪ワシントンホテルプラザ
出 席／社員数109名中出席60名、
委任状提出49名、欠席0名



通常総会の会場

役員改選ならびに議案はすべて承認

津田会長が勇退、新会長に木方氏就任



あいさつする津田会長

津田節哉会長は「本日は第8回の総会にご出席賜り、誠にありがとうございます。私が会長職を仰せつかったのは平成12年で、18年間会長、また副会長なども含めると30年近く本協会の仕事をさせていただいたが、その間皆様から多大なご支援を賜りましたことに改めて厚く御礼を申し上げます。

退任の弁として、月並みではあるが『初心を忘れず』という言葉がある。私は能をたしなむが、世阿弥の著わした『花鏡』には、初心には是非の初心、時々初心、老後の初心の3通りある。是非の初心とは、子供が初めて能を習い始めるときの緊張した不安と期待が入り混じったような気持ち。時々初心とは、成長して大体のことができるようになった時に、時々初心を振り返らねばならない。また100以上の曲がある中で、その時その時に曲の味わいを出さねばならないということ。老後の初心とは、今までやった曲を老後にもう一度やる時に、それまでの経験などをふまえて以前は感じなかった新たな別の感動を覚えながら能を演じる必要があるということ。また更に世阿弥は、この初心を後の世代に伝える必要があると説き、これが能が600年も続いている理由となっている。

本協会の初心は何かを考えた時に、それはやはり教育であるし、資格を作る前に技術者の教育をしっかりと消費者の信頼を得るといふ地道な努力をしてきたことは本協会の誇りである。今、技能検定制度による資格制度が推進機構のご努力で急ピッチに進んでいる。この制度は厚生労働省が専門教育を受けられない人のために実務経験を基準にして資格を与えて社会的評価を高めていこうという制度であるが、本協会は資格制度のための教育を永年やってきた、また眼鏡学校を育ててきたということを考えると、眼鏡業界はすでに資格制度に向けて先行しているので、眼鏡業界はそんなに難しくはなくてすぐに受け入れられるだろうと考えるが、これは国家レベルの話なのである程度の時間はかかると思われる。推進機構の岡本代表幹事は資格制度に向けて大変なご努力をされているが、岡本氏は眼鏡学校の理事長だが眼鏡店経営者ではなく、直接自分の仕事ではない問題であるのに業界のためにこれだけの仕事をしていることは大いに賞賛されなければならない。

改めて永年皆様からいただきましたご厚情とご支援に感謝を申し上げて最後の言葉としたい。どうも大変ありがとうございました」とあいさつした。

【議事経過】

(1) 司会の小野明夫神奈川県支部代議員は、はじめに、この1年間に亡くなられた会員の方々のご冥福をお祈りするため黙祷を要請した。次に、本日の総会の定足数について、定款第18条の規程により社員総数の過半数(55名)以上の出席が必要であること、並びに本日の出席状況として、出席予定者数60名中現在60名の出席に加え委任状が49名提出されており、これを加えると合計109名となり、社員総数の過半数以上の出席となるので本総会



司会を務める小野代議員



議長を務める金井副会長

が適法に成立することを報告し、開会した。

(2) 津田会長から開会のあいさつ

(3) 司会者小野明夫氏は、議長の選出について諮ったところ司会者一任の声があり、理事・副会長の金井昭雄氏を指名し、賛成を求めたところ、全員の拍手をもって、本日の議長は金井昭雄氏を選出することに決定した。

(4) 金井昭雄議長は、議長就任のあいさつのあと議事録署名人の選任について本職からの指名をもって決定したいと諮ったところ、異議なしの声あり、大阪府支部中尾卓司、京都府支部山口謙一の両氏を指名し両氏はこれを承諾した。

議長は、第1号議案及び第2号議案双方関連があるので、一括して議題にしたいと諮り、異議なしの声があり、直ちに一括審議に入った。

【審議事項】



説明する鈴木総務部長

第1号議案 平成29年度事業報告承認

鈴木利夫総務部長は、総会資料の議案1の平成29年度事業報告1から15までの会議の開催状況、各部の事業活動及び会員数等を詳細に読み上げて説明した。

第2号議案 平成29年度収支決算承認の件

平岩幸一財務部長は、総会資料の議案2の平成29年度収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表等について詳細に説明した。金井昭雄議長は、ここで監査報告を要請した。

監事を代表して岡野雄次氏から4月18日に行った監査の結果について、いずれも正確かつ適正に執行されていることを認めたと報告した。

金井昭雄議長は、第1号議案、第2号議案について質疑を求めたが、特に質問・意見はなく全員の拍手で承認された。



説明する平岩財務部長

第3号議案 平成30年度事業計画承認の件

鈴木利夫総務部長は、総会資料の平成30年度事業計画について詳細に説明した。

第4号議案 平成30年度収支予算承認の件

平岩幸一財務部長は、総会資料の平成30年度収支予算について、一部の数字の訂正を含めて詳細に説明した。

金井昭雄議長は、第3号議案、第4号議案について質疑を求めたところ、次の通り質疑が行われた。

(質問) 事業計画と予算は、総会での決議を経て初めて有効となるはずだが、総会に先立って5月の会報にすでに決定事項として掲載されているのは問題ではないか。また総会に議案として提出する際には(案)として提示すべき。

(回答) 事業計画と予算は、公益社団法人に移行して以降は3月の理事会で決定することになっている。全体的な整合性については内閣府にも確認をする。

(意見) 普及啓蒙活動としてリーフレットが送られてくるが活用されておらず、財政逼迫の中で、不要という意見が多い。

金井昭雄議長は、他に質問・意見がないことを確認し、第3号議案、第4号議案について承認を求め全員の拍手で承認された。



監査報告する岡野監事

第5号議案 定款の一部変更の件

平岩幸一財務部長は、総会資料の定款の一部変更(理事会の開催頻度、事業目的の追記)について、背景となった内閣府の立入検査の状況も含めて詳細に説明した。

金井昭雄議長は、第5号議案について質疑を求めたところ、次の通り質疑が行われた。



報告する坪内選挙管理委員

(質問) アワードについて、当協会の財政からの持ち出しはないのか。

(回答) 寄付金の中から全ての経費を賄い、当協会の費用は一切使わない。

(質問) 総額3千万円の寄付で毎年5百万円支出すると、なくなった後はどうなる。

(回答) 寄付金の残額がなくなればアワードの支出も終わる。

金井昭雄議長は、他に質問・意見がないことを確認し、第5号議案について承認を求め全員の拍手で承認された。

第6号議案 理事・監事選任の件

金井昭雄議長は、予め書面による投票が行われ、選挙管理委員会により既に開票が行われていることを報告し、選挙管理委員会に投開票結果について報告を要請した。

選挙管理委員会を代表して坪内登選挙管理委員から、次の通り報告が行われた。

①社員総数(平成30年6月1日現在)110名 ②投票総数100名 ③有効投票数100名 ④無効投票数0名

理事候補者25名、監事候補者2名について、候補者ごとに賛成・反対・白票を集計した結果、手元の配付資料に記載の通りであり、全候補者について過半数の賛成票を獲得しており、それぞれ選任されたことを報告。

金井昭雄議長は、選挙管理委員会の報告に対して質疑を求めたが、特に、質問・意見がなく、第6号議案は選挙管理委員会の報告通り承認された。

(理事・監事の詳細については11ページ)



報告する木方教育部長

【報告事項】

(1) 教育部(木方伸一郎教育部長)今年度の生涯教育の準備は着々と進んでいる。これまではテーマ数が多く詰め込み過ぎで消化不良になっていないかとの懸念から、今年度はテーマ数を減らして、基礎的なことを受け取るだけでなく自分で活かせる知識とする工夫をしている。またこの新しい試みの結果についてアンケートを実施する予定で、いただいたご意見を今後に反映させたいと考えている。

(2) 広報部(辻戦三広報部長)ステッカーやリーフレット、ミニカレンダーによる認定眼鏡士制度の普及啓蒙事業およびホームページへの掲載による会報発行の広報事業について詳細に報告した。また、ホームページの管理拡充については、担当の福田吉美広報副部長から今年度は3年ごとのリニューアルの年であり、同じ業者で更新したいと報告した。

(意見) リーフレットやポスターなどに、ホームページへ誘引するQRコードをつけたらアクセス数も増えるのではないか。

(回答) 検討させていただく。

(意見) チェーン店の店員は彼らの権限でリーフレットの配布やポスターの掲示はできないのが現状。必要としている所に十分行きわたるような配布方法の工夫が必要。

(3) 眼鏡技術者国家資格推進機構(岡本育三理事・眼鏡技術者国家資格推進機構代表幹事)技能検定制度導入に関し、日本眼科医会の賛同書を得るべく努力をし、多くの眼科医にはご理解をいただいたものの、一部の眼科医から「過去からの疑念が解消できない」ので賛同できないとの意見が出され、賛同書の取得には至らなかったが、推進機構はこれからも地方の眼科医会との協力、パンフレット等を積極的に活用し、生活者啓蒙に努め疑念の解消のための努力を続けて行く。

厚生労働省との話し合いも進み、制度導入のための具体的作業が進行しており、現在は、今後10年間に見込まれる受験者数の調査方法の検討を行っている。この調査では皆様方のご協力が必要になってくるので、調査依頼にはご協力をお願いする。



報告する辻広報部長



報告する福田広報副部長



報告する岡本理事

2018・2019 年度 理事・監事

理事 25 名・監事 2 名、五十音順、敬称略、太字は会長・副会長（5 名）・担当部長（兼任を含め 8 名）

総会終了後、初理事会が開かれ、正副会長、各部長が選任された



木方伸一郎会長
兼国際部長



金井昭雄副会長



平岩幸一副会長
兼財務部長



亀井正美副会長
兼会員組織部長



福田吉美副会長
兼総務部長

●理事（眼鏡専門学校）

伊藤克也（キクチ眼鏡専門学校 学校長）
岡本育三（東京眼鏡専門学校 理事長）
西村輝和（日本眼鏡技術専門学校 理事長）

●理事（会員）

相澤博彦 法制部長（東北ブロック、宮城県）
相原雄二（新任、四国ブロック、徳島県）
内田 豪 教育部長（新任、推薦、東京都）
小野明夫（関東ブロック長、神奈川県）
金井昭雄（北海道ブロック、北海道）
亀井正美 会員組織部長（近畿ブロック長、大阪府）
川倉敏信（北陸ブロック、富山県）
木方伸一郎 国際部長（東海ブロック、岐阜県）
佐藤良治（北海道ブロック長、北海道）
清水信弘（九州ブロック、佐賀県）

白山聡一（新任、東京ブロック、東京都）

杉本佳菜子 広報部長（推薦、東京都）

田部健二（四国ブロック長、愛媛県）

辻 戦三（中国ブロック長、岡山県）

仲西隆義 社会福祉部長（新任、九州ブロック長、福岡県）

中山貴子（新任、関東ブロック、神奈川県）

羽田和弘（東北ブロック長、青森県）

平岩幸一 財務部長（東海ブロック長、愛知県）

福田吉美 総務部長（新任、近畿ブロック、大阪府）

山崎親一（東京ブロック長、東京都）

横山武志（中国ブロック、島根県）

吉野紀子（推薦、京都府）

●監事

岡野雄次（公認会計士）

西田芳夫（北陸ブロック長、福井県）

＝ カメラアイ ＝

《感謝状贈呈》

竹田保世理事（4 期 8 年）は欠席



木方新会長から津田前会長へ（15 期 30 年）



片山敬三理事（10 期 20 年）



鈴木利夫副会長兼総務部長（累計 8 期 16 年）



野口毅社会福祉部長（3 期 6 年）

《初理事会》



総会終了後に開かれた初理事会



講演会の司会を務める内田豪新教育部長

《講演会》



左：「横長フレームにおける枠入れ時の
レンズ締め付けによる影響に関する研究」
春木大典さん（日本眼鏡技術専門学校卒業生）
右：「低加入度眼鏡装用での調節負荷の軽減」
奥本達成さん
（ワールドオプティカルカレッジ卒業生）

《懇親会》前・新会長が笑顔で登壇



「公益社団法人として生活者のために取り組み、また会員の生活と地位を維持したい」と主催者代表のあいさつする木方伸一郎新会長



乾杯の音頭をとる
金井昭雄副会長



中締めめの言葉を述べる平岩幸一副会長（右）、
津田節哉前会長（左）、木方伸一郎新会長

来賓あいさつをする
西村輝和日本眼鏡販売店連合会会長



司会を務める吉野紀子理事（左）と杉本佳菜子理事



懇親会会場

この Q&A のページは「認定眼鏡士」並びに眼鏡学校生徒からの質問に
本協会広報部 福田吉美副部長から回答いただきました。

Q：先日、商店街のある会合で、同席者から「認定眼鏡士」って何ですか。と聞かれました。
「メガネを調製するプロです」と簡単に答えたのですが、「どこにいて、何をしているのかわからない、具体的に目にしたことがない」と言われました。
また「メガネを作るのに資格がいるの?」とも質問されました。どのように答えるのが好ましいのかアドバイスを願います。

A：厳しいご指摘だと受け止めております。
現在「認定眼鏡士」を一般のユーザーへは、会員からリーフレットの配布や協会ホームページでの告知が主で、業界関係者への啓蒙が主流となっているのが現状です。
また、各ブロックや地域のイベントなどで一般消費者に告知できている程度です。「認定眼鏡士」とは何か、具体的にはホームページをご覧くださいのがベストだと思います。
本来はテレビや雑誌などメディアを利用して知名度を高められるといいのですが、財政的な問題と内容表現の規制などにより告知できていないのが現状です。
先にも述べましたが、現在はホームページをご覧くださいのが良いと思います。

Q：認定眼鏡士（眼鏡士）になってから早数十年が経ちました。社会的地位の確立、国家資格化を望みながら現在に至っております。

長年会費を納め、首を長くして待っておりますが、未だ具体的な進展や内容が把握できておりません。このまま会員を続けるメリットは何か教えていただけますか。

A：メリットの受け取り方はその方々によってさまざまだと考えています。資格を有し、会員であることの自覚とプライドにより、自己研鑽をなされている方もおられるでしょうし、エンドユーザーへのアプローチの一つとして、安心、信頼を提案できる一つのアイテムだとも考えられます。

会費を払っているのだから、その対価を求められるのも、もっともだと思いますが、当協会ではここへの対価ではなく、組織としての地位の向上や確立に向けての大切な会費だと認識しております。

さらに、認定眼鏡士の知識と技術の向上への教育、実践に不可欠な会費だと認識しております。なにとぞ、ご理解の程、お願い申し上げます。

Q：今春、眼鏡学校を卒業し、認定眼鏡士になった者ですが、就職先でいつも「これ位のことは認定眼鏡士からできるだろう」と注意されます。

認定眼鏡士はどれくらいのことができれば認定眼鏡士なのですか。また、他の眼鏡学校を卒業した方々はどれくらいのことが当たり前のできるのですか。同じ SS 認定眼鏡士でもレベルはかなり違うと思うのですが。

また、学校によって学ぶ内容は違うのでしょうか？

A：ご卒業おめでとうございます。また、ご就職おめでとうございます。

認定眼鏡士を取得されて、輝かしい未来へ向けて出発されたことだと思いますが現実の壁に立ちはだかれたようですね。

これ位のこととはどれ位のことかわかりませんが、期待を込めての励ましの言葉と受け止めてはいかがですか。いくら認定眼鏡士を取得したからといっても社会に出てすぐに実力を発揮できるとは限りません。注意をなさる先輩も、はじめは似たようなものだと思いますよ。

また、各眼鏡学校での授業内容はほぼ同じようなカリキュラムになっていると思います（特に最近は資格化に向け各学校の授業内容の均一化に取り組んでいます）

学校で学び、認定眼鏡士になられた方は高い知識とスキルが身に付いていると思います。

ただ、今はまだその実力が発揮できないでいるだけだと思いますので、これからも日々研鑽なさってください。

理事会 報告

日時／平成30年10月31日(水)
午後2時～3時50分
会場／ニューオーサカホテル
出席／理事総数25名中、出席23名、
欠席2名。監事2名中、出席2名
顧問1名、特別出席1名



理事会風景

代議員選挙関連事項などを承認 木方会長新体制がスタート



あいさつする木方会長

木方伸一郎会長は「先週開催された IOFT の日程の関係で、理事会が忙しい月末日の開催となりお詫び申し上げる。今年は猛暑、地震、台風と自然災害が続き、会員の中に大きな被害を受けられた方はおられなかったが、お客様の中にはそういう方々もおられると思うので、一刻も早い復旧を願う。本協会の事業は生涯教育やブロック会議など例年通り順調に行われており、後ほど報告させていただく。上期決算が終わると次年度の事業計画と予算を作成する時期に入ってくるが、新しい時代に向けて今までのことも踏まえながら新しい知恵をもって臨んでいきたいので、各部長の方々にはご苦勞をいただくが、理事の皆様にもどうぞ忌たんのないご意見をよろしくお願い申し上げます」とあいさつした。



説明する福田総務部長

【審議事項】

議題1. 平成30年度上期事業報告並びに上期決算報告の件

- ①福田吉美総務部長から、事前送付資料に基づき事業内容について詳細に報告した。
- ②内田豪教育部長から、事前送付資料に基づき教育事業について詳細に報告した。
- ③平岩幸一財務部長から、事前送付資料に基づき上期決算について詳細に報告した。
- ④岡野雄次監事から、事前送付資料に基づき監査結果について報告した。

議長は、平成30年度上期事業報告並びに上期決算報告全般について、意見、質疑を求めたところ特に異議はなく、全員の拍手で承認した。

議題2. 代議員選挙実施の件

福田吉美総務部長から当日配付資料に基づき、代議員改選に伴う支部別代議員数見直し及び支部代議員等選挙公示について報告した。同時に選挙管理委員は坪内登氏、中島能澄氏、鈴木利夫氏にお願いすると報告し、特に異議なく全員の拍手で承認された。



説明する内田教育部長

議題3. 顧問・相談役委嘱および副部長任命の件

福田吉美総務部長が当日配付資料に基づき報告した。特に意見はなく、原案通り全員の拍手で承認された。

ここで顧問に就任した津田節哉前会長から「私は会長を9期18年も務めさせていただいたが、世代交代・新陳代謝をもっと早く進めておくべきだったかと反省する。顧問は本来外部の有識者になれるものであるが、私にできることは務めさせていただくので、どうぞよろしくお願いする」とあいさつがあった。



説明する平岩財務部長



報告する岡野監事



あいさつする津田顧問



報告する横山理事



報告する岡本理事



報告する日本眼鏡士連盟
白山理事長



報告する日本眼鏡士連盟
神田事務局長

【報告事項】

1. 組織活性化特別委員会

横山武志理事が「会員組織部の中の組織活性化特別委員会として、先ほど理事会の前に第23回目となる委員会を開催した。今年度に入ってから、活性化委員会のあり方、今後について色々議論を重ねてきた。もともと平成24年度から25年度の2年間限定ということで設置され、女性の登用やブロック会議への参加、若手向けの講習会の開催などを行ってきて一定の成果があったので、当初の役割も終えたのではないかと考える。会長が交代したこともあり、会員組織部としての組織活性化特別委員会は発展的解消とすることとした。今後は新しい会長のもとで、何かテーマがあれば運営をしていくこともあるかと思うが、これまでのご指導・ご鞭撻ありがとうございました」と報告した。

2. 眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動き

推進機構代表幹事の岡本育三理事が当日配付資料に基づいて報告した。この資料を用いて今年度の本協会ブロック会議に極力出席して直接皆様に説明している。

（質問）皆さんの関心はいつ頃に資格制度ができるかということ。いつ頃になるのか。

（回答）相手があるので何とも言えないが、当方の希望としては東京オリンピックの頃。

3. アワード運営委員会

平岩幸一財務部長が当日配付資料に基づき報告した。

（質問）寄付金の払い込み総額はもう決まっているのか。

（回答）3千万円で確定している。

（質問）その払込の経理処理はどうするのか。

（回答）特定資産として管理すればその年度の収入とはならないので、本協会の一般会計とは別枠で管理するということになる。

（質問）エントリーシートはホームページからダウンロードする形で進めるのか。

（回答）その通り。

4. 日本眼鏡士連盟の活動と収支状況について

日本眼鏡士連盟理事長の役職にあるの白山聡一理事からあいさつがあり、続いて、特別出席の神田幹雄日本眼鏡士連盟事務局長が当日配付資料に基に参加した政治資金パーティを含む活動や1～9月の収支について報告した。

5. その他

①会員数並びに認定眼鏡士登録者数／会員数5,572名、認定眼鏡士6,781名（平成30年9月末現在）

②今後の会議日程／福田吉美総務部長が、①②について当日配付資料に基づき報告。

議長が、その他全般について意見を求めたところ、亀井正美副会長から日本眼鏡技術専門学校および本協会大阪府支部の移転について報告があった。（詳細は22ページ参照）

東 北

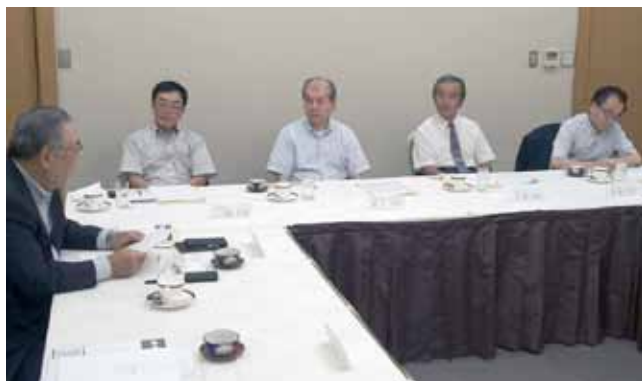
東北ブロック会議は、9月4日仙台市のホテルメトロポリタンで昼食会のあと開かれた。羽田和弘ブロック長以下支部の関係者、眼鏡技術者国家資格推進機構の岡本育三代表幹事、本部からは木方伸一郎会長と塚田博事務局長の合計11名が出席した。

冒頭、羽田和弘ブロック長から、「ブロック長として初めての会であるが、活発な意見を」と開会のあいさつ、木方伸一郎会長からは「技術革新のスピードが速く安全・安心への関心が高まっている中で、今後の協会運営の参考としたいので皆様からの忌たんのないご意見を聞かせてほしい」とあいさつがあった。

眼鏡技術者国家資格推進機構関連については、岡本育三代表幹事から配布資料を基に最近の着実な進展について報告があった。教育事業については、教育が大切で今後とも続けていくという本流は変わらないが、時代に合わせた内容や機会の提供に関連して、今年はアンケートを実施し、次年度以降のテーマ選定や運営方法の改善に活かしていきたいと述べた。

各支部からの支部活動報告の後、本部事務局から東北ブロックの各支部の会員数推移、支部予算の着実な実行について、代議員選挙公示に関する予告、地区眼科医会との関係、生涯教育のアンケート結果などの報告があった。

(写真は東北ブロック会議)



中 国

中国ブロック会議が、9月12日、ホテルグランヴィア岡山で昼食会のあと開催され、辻戦三ブロック長以下各支部長、本部からは木方伸一郎会長、塚田博事務局長の合計8名が出席した。

はじめに先般の西日本豪雨の被害者への黙とうをささげた。辻戦三ブロック長は、岡山地区の被災状況を報告し、各位からの温かいご支援に感謝するとともに支部としても支援物資を拠出したこと、その

他企業や眼鏡店の景気動向や来春に岡山で開催される日本眼鏡学会の予告などについて報告した。木方伸一郎会長は、眼鏡業界が商売的に厳しい中で、今後生き残っていくためには社会に必要とされることを実行していくことが肝要であり、皆様のご意見をよく伺って考え今後に向けての考えをまとめていきたいと述べた。また、眼鏡技術者国家資格推進機構の状況については配布資料を基に最近の着実な進展についてと述べた。

各支部からは、生涯教育開催やPR活動、地区眼科医会との関係などについて報告し、本部事務局からは中国ブロックの各支部の会員数推移、支部予算の着実な実行について、代議員選挙公示に関する予告、地区眼科医会との関係、生涯教育のアンケート結果などを報告した。

(写真は中国ブロック会議)



東京・関東

10月3日、東京都支部のある油脂工業会館で東京・関東ブロック会議が開催された。

山崎親一東京ブロック長、小野明夫関東ブロック長以下各支部の代表者、眼鏡技術者国家資格推進機構の岡本代表幹事、本部からは木方伸一郎会長と塚田博事務局長の合計25名の出席した。

山崎親一東京ブロック長はあいさつの中で、「限られた時間ではあるが、この場を活用して有意義な意見交換をお願いしたい」と述べた。続いて、木方伸一郎会長が「当協会の事業の核は教育であるが、生涯教育がもっと役に立つ、そして受けやすいものにするために今回アンケートを実施し、この結果をもとにさらに内容を充実させ、我々のレベルアップを図っていききたい。また、認定眼鏡士の存在をアピールする広報事業も大切であるが、まずは皆様のご意見をお聞きしながら運営していきたい」と述べた。次に、眼鏡技術者国家資格推進機構関連について岡本育三代表幹事から配布資料に基づいて最近の着実な進展について報告があり、活発な質疑応答が行われた。

各支部からは、生涯教育の実施、PR活動、10月のイベントなどについて報告があった。本部事務局からは東京・関東ブロックの各支部の会員数推移、支部予算の着実な実行について、代議員選挙公示に関する予告、地区眼科医会との関係、生涯教育のアンケート結果などを報告した。会議終了後は別室で懇親会が開かれ、種々の意見交換をする中で親睦を深めた。

(写真は東京・関東ブロック会議)



九州

10月11日に福岡市の西鉄イン福岡で九州ブロック会議が開かれた。出席は、仲西隆義ブロック長以下各支部の代表者、眼鏡技術者国家資格推進機構の岡本育三代表幹事、本部からは木方伸一郎会長と塚田博事務局長の合計17名。

清水信弘佐賀県支部長の開会の辞、仲西隆義ブロック長のあいさつのもと、木方伸一郎会長が「今年は災害が多くお見舞い申し上げます。生涯教育について

では、これまで高度な内容としすぎた感もあるが、今後はより実践的な内容にも気を配っていききたい。今後の運営について皆様の忌たんのないご意見を伺いたい」と述べた。眼鏡技術者国家資格推進機構関連については岡本育三代表幹事から最近の着実な進展について配布資料に基づき報告があった。

各支部からは、生涯教育の実施、PR活動、10月のイベントなどについて報告があった。また、福岡県支部からは、補聴器や時計修理士の情報などとともにいくつかの提言があった。本部事務局からは、九州ブロックの各支部の会員数推移、支部予算の着実な実行について、代議員選挙公示に関する予告、地区眼科医会との関係、生涯教育のアンケート結果などについて報告した。ブロック会議終了後は懇親会が開かれ、種々の意見交換をする中で親睦を深めた。

(写真は九州ブロック会議)



“目の愛護デー・メガネの日” 関連などの支部活動

10月末までにいただいたご報告です



大阪府支部（平井了支部長）および大阪眼鏡専門小売協同組合は、10月7・8日にサンケイホールブリーゼで開かれた大阪府眼科医会主催「目のすべて展」に協賛しました。来場者は2日間合わせて492名、眼鏡相談には35名がいらっしゃいました。

会場では、メガネに関する講演会として日本眼鏡技術専門学校（辻一中央校長）が「調整の大切さ」をテーマに講演しました。また、遮光眼鏡・累進レンズ・拡大鏡の展示、大阪眼鏡小売協組の絵画コンクールの作品が展示され投票が行われました。



東京都支部（山崎親一支部長）は、10月1日、上野不忍池畔・弁天堂で東京眼鏡販売店協同組合主催の「第6回めがね供養会」に協賛しました。今年は、不要となった約1,998本のメガネを供養。組合員から1,936本、組合員外の企業から19本のほか、当日一般の方から43本のメガネが寄せられました。組合員やメーカー・商社のほか、一般消費者ら約30名が参加しました。

供養会では、白山聡一東京眼鏡販売店協理理事長が「日本人は古来より、すべてのモノには靈魂が宿ると考え、動植物や道具をはじめ生活に関わるあらゆる物を供養してきた。一人のためだけに作られたメガネもその一つ。全ての眼とメガネにかかわる生業従事者を代表し、役割を終えたメガネに対して衷心より感謝の気持ちを表したい。ここ不忍池弁天堂のメガネの碑の御前に感謝と哀悼の誠を捧げ、次世代まで技術や伝統を継承できるように、メガネが国民のQOL向上に欠かせぬQOVの役に立つものであり続けるように努力することを誓う」と祭文を読み、捧げました。読経、焼香に続き、法師が「“供養”とは養い心を供えるの意味で感謝の心を供えること。メガネに対する思いと愛情を大切にされることは、ますますの発展につながる」と話をされました。



北海道支部（中山勝弘支部長）は、札幌市北区介護予防センター屯田からの要請で、10月10日屯田創成の里記念館（45人）、11日屯田西集会所（25人、写真上）、18日屯田地区センター（34人）、25日屯田団地会館（42人、写真下）で講演、予定数以上の合計146人が参加しました。

講師は同支部の中川明雄氏で、メガネは視生活において大切な道具ですという話から始まり、海外や日本の実情と資格について、認定眼鏡士や本協会、目についてなどの内容で講演しました。同センターでは、「機会があればまた協力をお願いしたい」と話し、好評を得ています。





福岡県支部（仲西隆義支部長）は、9月27日、福岡三越前ライオン広場で昨年に続き「10月1日は『メガネの日』」と題したイベントを開催しました。

当日は、1,000名以上が訪れ、パンフレット5種のセット1,000部、メガネの日のロゴ入りメガネ拭き、同支部の認定眼鏡士在籍店のチラシを配布したほか、支部会員30名が眼鏡相談にあたりました。また、メーカー7社が、体験会（ニコン：VR体験、東海光学：ルティン測定体験、セイコー：紫外線対策、HOYA：見え方体験、青山眼鏡：若見えフレーム体験）などを行いました。体験特典として、ブランドメガネケースを進呈したほか、CutiePai まゆちゃんのMCで効果的なPRを行いました。

さらに、FBS福岡放送、TVQテレビ九州がニュースで当日の様様を放送、毎日新聞（写真左）、西日本新聞にも記事が掲載されました。「トラブルなく大成功に終わりました。来年も行いたい」とご報告をいただきました。



神奈川県支部（小野明夫支部長）は、6回目を迎えた「10月1日はメガネの日」のイベントを10月1日、横浜駅東口SOGO前広場で開催しました。

前日に猛威を奮った台風24号の影響でJR・私鉄各線のダイヤの乱れの為に横浜駅構内は通勤・通学の人達で溢れ、さらに前日にプロ野球パリーグで優勝を決めた埼玉西武ライオンズの優勝記念セールがSOGOで開催されたために、午前中は例年より少ない来場者でしたが、昼過ぎからは大勢の方に来場いただいたということです。

今年はサブタイトルを「メガネで健康で若々しく」とし、参加いただいた各社は、眼の健康を守るレンズやアンチエイジングのためのフレーム選びのアドバイスなど、例年とは違った取り組みが大勢の方に喜んでいただけました。また、VRによる見え方体験・オートレフによる簡易的な屈折異常のアドバイス等も好評でした。夕方からは恒例のCutiePai まゆちゃんのトークと新曲「メガネ my boy」の披露で大いに盛り上がりました。

「各支部が10月1日にいろいろな取り組みをしていることと思います。この流れが全国に広がり認定眼鏡士の知名度向上に繋がればと思います」とご報告をいただきました。



宮崎県支部（山口清一支部長）は、メガネにかけた日時、10月10日午前10時10分からNPO法人スローライフ宮崎主催の「めがね供養祭」に参加しました。

関係者、一般の50名が参加し、メガネを供養。集まったメガネは、宮崎県支部、卸店、一般参拝者やNPO法人からのものを合わせ約1,277個で、使用可能なものを宮崎県ボランティア協会に寄贈したとのことです。



徳島県支部（相原雄二支部長）は、10月10日、葛城神社で「メガネ供養」を開催しました。

めがね塚建立 20 周年となる今回は、多くの方に集まってもらおうと開催日を例年の1日から10日に変更、本協会木方伸一郎会長をはじめ 23 人がメガネを供養しました。

さらに、メガネ供養だけでなく使わなくなったメガネを県眼科医会と連携して震災時などに無償配布するなどの紹介文を掲載したリーフレットを作成（徳島県めがね商連合会）しました。



熊本県支部（古賀寛治支部長）は、10月1日、手取神社で「メガネ供養祭」を執り行いました。

また、10月18日の熊本日日新聞には、「大切なメガネ作りは有資格者に」「任せて安心の認定眼鏡士」「3年ごとに資格更新も」という見出しで認定眼鏡士についての紹介記事が掲載されました。



福井県支部（赤松賢治支部長）は、10月20日（公財）福井県アイバンク、福井県眼科医会主催の「目の愛護デー事業」に協賛しました。

昨年同様の集客もでき、81 名の方が検診されました。会場ではチラシ、リーフレット、ティッシュ等を配布。支部では 4 名の理事がメ

ガネの洗浄、パッド交換、調整などをしたほか、本協会の PR 活動も行いました。



高知県支部（楠瀬剛志支部長）は、10月7日、高知市の中央公園北口前で、高知眼鏡商組合主催の「メガネのチェック＆チェック」に協力しました。なお、同所で高知県眼科医会による「目の健康相談」も同時開催されました。

当日は、同組員であり認定眼鏡士でもある 10 名が、「メガネクリニック」として、メガネの点検・クリーニング・相談などのほか、チラシやセリット、ポケットティッシュなどで「メガネの日」や「目の愛護デー」の PR を行ったとのことでした。



佐賀県支部（清水信弘支部長）は、10月10日付の佐賀新聞に支部会員の紹介を含めた広告を出しました。



兵庫県支部（北出彌一郎支部長）は、10月1日付の神戸新聞に広告を掲載。なお、予定されていた眼鏡感謝祭は台風 24 号の進路を考慮し事前に中止となりました。



奈良県支部（森本勝支部長）は、奈良新聞の発行する「くらしの SOS BOOK」に広告を掲載しました。

また、9月17日には奈良新聞に生涯教育の様子を報じる記事が掲載され、認定眼鏡士が新しい知識や技術を毎年学んでいることが紹介されました。



岩手県支部（村上吉則支部長）は、10月1日付の岩手日報に広告（カラー）を出しました。



鹿児島県支部（岡野和典支部長）は、標語啓発ポスター（A3）を作成、支部会員に配布し、9月10日から10月20日まで各店頭に掲示して消費者に啓蒙しました。「目のことはお近くの眼科専門医へ」という文言に反響があったそうです。



和歌山県支部（山田稔支部長）は、10月10日に朝日新聞に広告を出しました。



青森県支部（羽田和弘支部長）は、青森県眼科医会の目の愛護デーに協賛、10月10日付東奥日報の同医会の広告の下に広告をだしました。



千葉県支部（板倉進支部長）は、認定眼鏡士の啓蒙用に

使い捨てのアルコールの湿式レンズクリーナーを生涯教育に参加した会員に配布しました。

支部によると「昨年から実施しており、会員から一般消費者に配布する際に認定眼鏡士について一言添えてもらおう。認知度を上げる手助けになればと思います」、また「本来なら支部会員全員に配布したいところですが、数が限られていることと、郵送料が多くかかることから、今回は3枚入りパックを7,000個を準備し、支部開催の生涯教育受講者に限り一会員60個ほどを会場で配布しました」とのことです。



埼玉県支部（栗原宏治支部長）は、「(公社)日本眼鏡技術者協会

埼玉支部」の文字入りのボールペンを支部会員に配布したほか、3月に読売新聞に広告を出す予定です。

京都府支部（鈴木利夫支部長）は、10月8日、ゼスト御池の河原町広場で、京都府眼科医会主催の「忘れていませんか 目の健康」に協力。会場には498名が訪れました。認定眼鏡士は眼鏡相談を受け付けており「メガネが合っているかみてほしい」の相談が大多数だったとのこと。

長野県支部（中澤國忠支部長）は、11月中旬に信濃毎日新聞に広告を出す予定です。

組織活性化特別委員会は、10月31日午前11時からニューオーサカホテルで委員会を開催、7名が出席した。

議事では、前回22回委員会の内容を最終決定するとし、まず青年／女性部の廃止、また当委員会は平成24年10月に2年間限定で発足し、当初の目的に対して一定の成果があったため発展的解消となることとした。このほか、理事が新体制になったことから、教育や広報、会員組織部の役割や実際の活動などについて確認した。



(写真は組織活性化特別委員会)

お知らせ

日本眼鏡技術専門学校ならびに大阪府支部は、11月5日より下記へ移転しました。

所在地：〒530-0055 大阪市北区野崎町1-3

日本眼鏡技術専門学校／電話：06-6315-6633 FAX：06-6315-7030

大阪府支部／電話・FAX：06-6315-8010

2019年ミニカレンダーをお届けしました

今年も11月初めにミニカレンダーを認定眼鏡士の方に10部ずつお届けいたしました。

今回は、表紙がイラストでカレンダー部分は、それぞれの季節の花、また（一社）福井県眼鏡協会・公認めがね大使Cutie Pai まゆちゃんの写真を掲載しています。最終ページには、前回同様、視野の自己チェックチャート、近くのめやす表（文字サンプル）を掲載しています。

各店でお客様にお渡ししていただくなど、ぜひご活用ください。



編集後記

日本列島は今、酷暑の夏が過ぎ、大型で強い台風にも幾度も見舞われ、紅葉の時季を迎えようとしています。この度広報部長を仰せつかりました東京の杉本と申します。

辻前広報部長には3期6年務めていただき、ありがとうございました。大変お疲れさまでした。辻前部長からは、今までのご苦勞を含め本協会の広報のあり方をお教えいただく所存です。私は今まで組織活性化委員会に所属し委員会の皆さんと意見交換を重ねてきました。これからの広報部のあり方も部会の皆さんと協議をしながら、また会員の皆様のご意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

メガネは手仕事で一つひとつお作りします。消費生活者への認定眼鏡士の普及啓蒙も手作業するような気持ちで感性を活かしながら作成していけたらと思っています。人から人へ手から手へお届けしたい気持ちを形に。

なお、表紙の写真は神奈川支部の小野理事のスナップ写真を使わせていただきました。この最終ページには東京支部の時澤さんの美しい構図の写真を掲載させていただきました。



新潟県十日町市清津峡
撮影：時澤淳一郎さん（東京都支部）